



M.S. 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2014 年 3 月 2 日～3 月 9 日（8 日間）

I. プログラムについて

このプログラムを通して私が出たものは、大きく分けて二つに分けることができます。一つ目は、このプログラム名が示す通り、現場における日本語指導の経験です。大学での授業で学んだ知識を活かしたことで、そして、教科書には載っていない大切なことを学ぶことができたのは、私の拙い授業に積極的に参加してくれた政治大学の学生たちと、私達の個性を尊重して下さった実習担当の先生のおかげです。私のお世話になった先生は、あまり細かいことをとやかく言わずに「今回の実習がこれからのあなたの自信につながればそれで成功。自由がんばってください。」と励まして下さり、肩の力を抜いて、自分らしい授業をすることができたと思っています。

二つ目に私が出たものは、沢山の出会いです。まずは先述した実習担当の先生方。個性豊かな先生方ばかりで、それぞれの先生の授業に対するポリシーや人生経験を聞くことができたことは非常に刺激になりました。そして、私達をつきっきりでお世話してくれたチューター（政治大学の有志の学生）のみなさん。昼間、大学で授業見学や実習準備をした後、彼らの案内で夜中まで台北市内をわいわい歩きまわり、宿舎に帰り眠い目をこすって教案の修正をする日々が続きました。不思議と疲れは感じませんでした。一生の思い出です。チューターさんたちとは、今でも SNS を使って連絡をとっています。彼らともう一度会えたらいいなと思えるくらい、素晴らしい出会いでした。





II. 参加希望者へのアドバイス

「日本語指導実習プログラム」と聞くと何か高いレベルのことを求められるのではないかと応募を踏みとどまってしまうかもしれません(私もそうでした…)。しかし、プログラム担当の先生が提示して下さる教案作成のスケジュールをしっかりと守り、出発までにある程度教案を完成させておくことができれば、誰でも(日本語教育専攻でなかったとしても)挑戦できるプログラムだと思います。私はそのスケジュールをあまり守ることができず、不安と未完成の教案を抱えて日本を出発してしまいました。いつ何が起こるか分からないので、早め早めに作業に取り組んでいれば、全く心配は必要ないと思います。相談に乗って下さる日本語日本文学科の先生もいらっしゃいます。

台湾から帰る飛行機の中で「参加してよかった」と必ず思えるプログラムだと思います。





H.S. 日本語日本文学科 2年次生

参加期間： 2014年3月2日～3月9日(8日間)

I. プログラムについて

約一週間、台湾の政治大学で日本語教育の現場を体験できます。主な目的は教壇実習です。授業の最終日には教壇実習を行い、そのほかに大学の授業見学や教壇実習の準備をします。

主な目的は教壇実習ですが、もう一つの重要な目的は台湾の学生たちとの交流です。授業外では観光地や学生さんたちが普段行くところまで様々なところへ案内してくれます。学生さんとの会話はすべて日本語で、会話からいろいろな気づきもあります。

II. 参加希望者へのアドバイス

教壇実習のことで言えば、山本先生や現地の担当の先生が細かくご指導くださるのでそれを受けて準備していけば大丈夫だと思います。あと、大学で習った授業とは全く違った授業形態で教えることになります。あまり頭を固くせず、楽しんで教え方を考えてみてください。私はあまりできませんでしたので…

台湾での生活面では、台湾は日本より暖かいと思うかもしれませんが、私の行ったときはたまたま雨続きでとても寒かったです。台湾の天気はころころ変わるそうなので、暖かい服と薄手の服、調節のできる服装を考えていってください。

上記にも書きましたが、台湾の学生さんはいろいろなところに連れて行ってくれます。「どこか行きたいところある？」とか「食べたいものある？」と聞いてくれるので、遊びで行くわけではありませんが、行きたいところや食べたいものなどを少し考えておいてもいいと思います。やはり、台湾について調べて、興味のあるものを見つけておくと話のレパートリーが増えて学生さんと一層仲良くなれると思います。